

# 文化財 ニュース

35 Spring 2025



特集

日比谷図書文化館特別展

実録

桜田門外の変

変



## Index

- 1-3 特集  
実録 桜田門外の変
- 4-5 Chiyoda コレクション  
紙本墨書掛軸「長華園記」  
日下部鳴鶴筆
- 6-7 埋文News  
千代田区の古墳時代  
—江戸城内にも古墳が?—
- 8 文化財事務局通信  
令和7年度年間スケジュール(予定)

月岡芳年画「安政五年三月三日水府ノ脱士等芝愛宕ノ山上へ集会ニ及ビ旧主ノ鬱憤ヲ散ゼン為大老彦根侯ヲ撃殺ト雪中ニ密計ヲ評定シ余波ノ宴ヲ催ス図」

明治9年(1876)、三谷家美術資料(区指定文化財、千代田区教育委員会寄託)

特別展  
情報

令和7年

2月8日(土)~3月24日(月)

開館時間: 月~木・土10時~19時  
金10時~20時、日・祝10時~17時  
(入室は閉室の30分前まで)

会場: 千代田区立日比谷図書文化館 1階 特別展示室  
休室日: 2月17日(月)・3月17日(月)

観覧料金: 一般500円 大学・高校300円  
区内在住者・中学生以下・障がい者(付添1名)  
無料

主催: 千代田区立日比谷図書文化館  
共催: 千代田区、千代田区教育委員会

# 「実録 桜田門外の変」



月岡芳年画「安政五戊午年三月三日於テ桜田御門外ニ水府脱士之輩会盟シテ雪中ニ大老彦根侯ヲ襲撃之図」(部分) 明治7年(1874) 頃  
(国立国会図書館デジタルコレクションのものを接合して作成)

## 人々は事件をどう記し、どう伝えたのか

季節外れの雪降る安政7年3月3日(新暦1860年3月24日)、江戸城外桜田門の前で、幕府の大老井伊直弼なおすけが攘夷過激派の浪士に襲撃されました。世にいう「桜田門外の変」です。事件は幕府内部だけでなく社会をも揺るがし、7年後に江戸時代は幕を閉じることとなりました。

現在の千代田区域で起きた桜田門外の変は、現代でも芝居や小説、ドラマや映画などで取り上げられる知名度の高い歴史的な事件です。しかし、後世にそのドラマ性が強調され、脚色されて伝わった部分も多いのが実情です。事件がいつ、どこで、どのような状況で起き、その後どうなったのかは、意外と知られていないのではないのでしょうか。

今回の展覧会では、事件直後に情報を得た武士や商人をはじめ、現場を目撃した門番、捕えられた襲撃者が残した史料や絵図などをもとに、事件の「実録」を追ってみます。

### 見どころ①

## 事件を描いた絵が日比谷に集結!!

現在、最も有名な桜田門外の変の絵と言えば、茨城県立図書館所蔵(茨城県立歴史館保管)の「桜田門外の変図」でしょう。日本史の教科書や資料集などで見覚えのある方も多いと思います。襲撃者の一人である蓮田市五郎が、事件後細川邸に預けられている間に描いたとされています。しかし、それ以外にも桜田門外の変を描いた絵巻や浮世絵などは各地に残っています。

今回の展覧会では、「桜田門外の変図」をはじめ、事件を題材にした作品を多数ご覧いただけます。よく見ると構図だけではなく、描かれている建物や人物の名前・服装などが異なり、事件がどう捉えられ、描かれたのかを比較することができます。



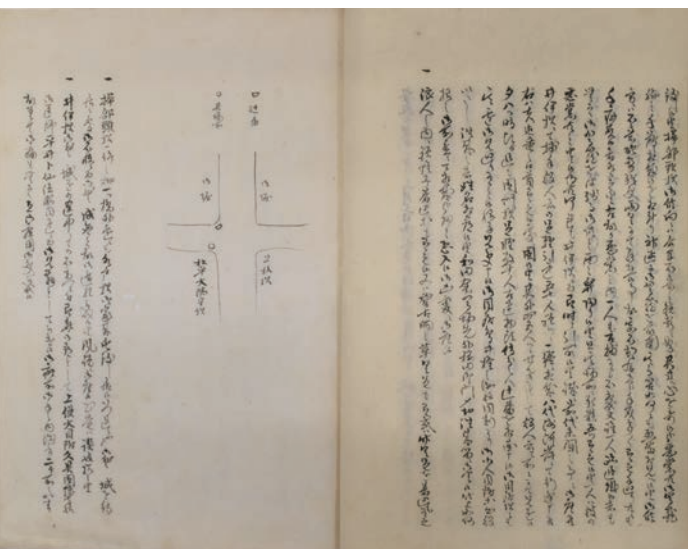
万延元年桜田事変の図  
『新撰東京名所図会 第拾六編 麹町区之部 上』 東陽堂出版  
明治31年(1898)、千代田区所蔵

## 見どころ②

### 一見地味でも…古文書から 得られる情報はたくさん!

上巳の節句（ひな祭り）は定められた大名の登城日であり、当時多くの見物客がいたとのこと。しかも事件は白昼往来で起きたため、目撃者も多かったといえます。幕府は、井伊直弼の死を公には秘匿しましたが、事件は様々な身分や立場の人々によって記録され、またたく間に全国に伝わりました。人から人へ情報が伝わる中で、根拠のないうわさや嘘も流布していきました。

今回の展覧会では、武士や町人、商人らがどのように事件を伝えたのか、各地に残る記録（古文書）から読み解きます。絵画と比べるとどうしても華々しさはありませんが、当時の状況を伝える貴重な史料です。



「桜田騒動史料」 江戸後期カ、千代田区所蔵

そもそもなぜ桜田門外の変は起きたのでしょうか。事件の背景や、その後の様子についても詳しくご紹介する予定です。また、区内で行われた彦根藩井伊家上屋敷跡（永田町1-1 旧衆議院憲政記念館）の発掘調査についても速報的にお伝えします。

幕末の動乱の時代にタイムスリップしたつもりで、情報伝達の難しさや歴史を伝える面白さについて、思いを巡らせてみてください。

（学芸員 篠原 杏奈）



## ●● 展覧会関連イベント ●●

### 関連講演会 ①

#### 「彦根藩世田谷領の人々と桜田門外の変」

日時	2月22日(土) 14時～15時30分
講師	角和 裕子(世田谷区立郷土資料館学芸員)
会場	日比谷図書文化館地下1階大ホール (コンベンションホール)
定員	200名(先着順・事前申し込み)
参加費	1,000円



### 関連講演会 ②

#### 「桜田門外の変の描かれ方」

日時	3月1日(土) 14時～15時30分
講師	大石 学(静岡市歴史博物館館長/東京学芸大学名誉教授)
会場	日比谷図書文化館地下1階大ホール (コンベンションホール)
定員	200名(先着順・事前申し込み)
参加費	1,000円

### 関連講座 ③

#### まち歩き「歩いて現場検証!桜田門外の変」

日時	3月22日(土) 10時から2時間程度
講師	千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室 学芸員
募集	2月25日(月)より募集を開始します。 詳細は広報千代田、日比谷図書文化館ホームページから御確認ください。
定員	20名(先着順・事前申し込み)
参加費	1,000円

### 関連イベント

#### 担当学芸員によるギャラリートーク

日時	2月21日(金)、3月5日(水)、3月14日(金) 各回18時から30分程度
参加費	無料・申込不要(直接会場へお集まりください)

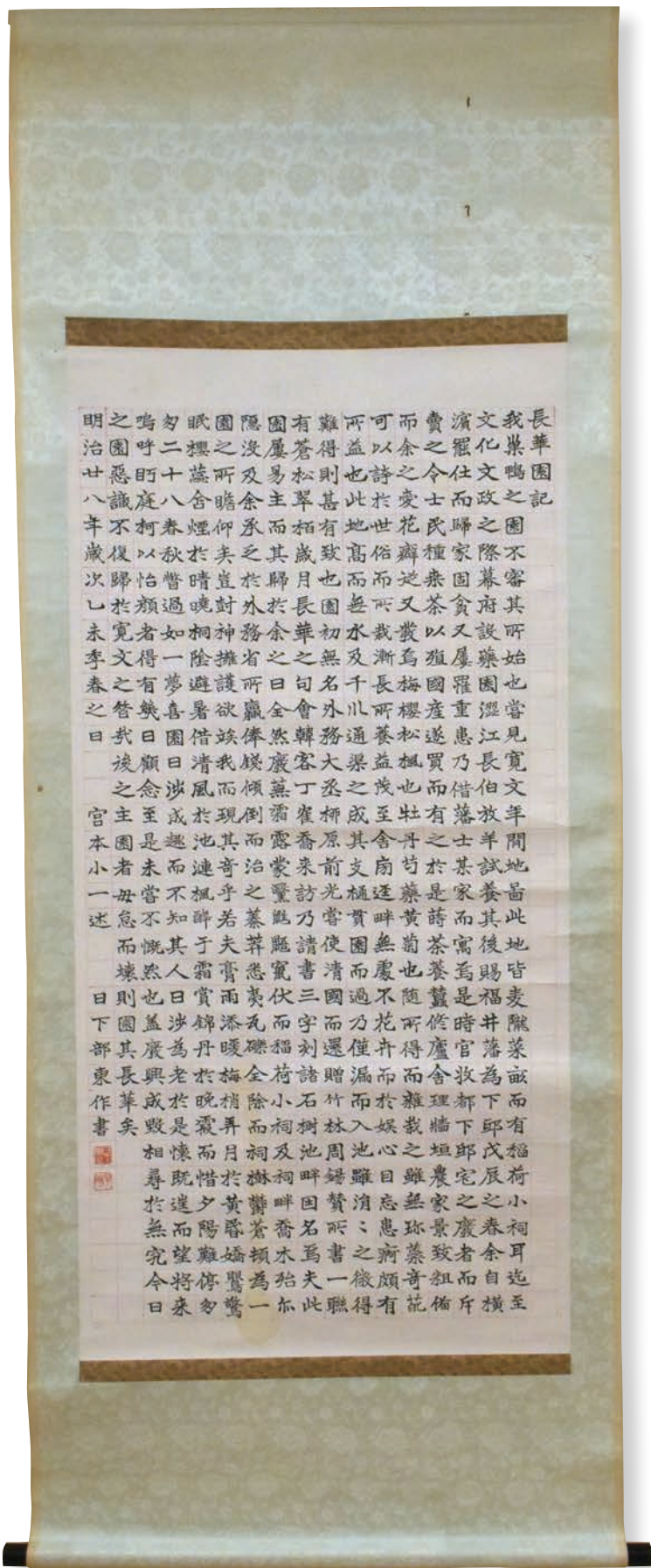
申込方法

電話(03-3502-3340)、ご来館(1階受付)、お申し込みフォーム、いずれかにて、下記の情報をご連絡ください。  
①講座名(または講演会名) ②お名前(よみがな) ③電話番号 ④メールアドレス(「お申し込みフォームからの場合」)

※展覧会・イベントの詳細はこちら ▶



# 紙本墨書掛軸「長華園記」日下部鳴鶴筆



【写真1】紙本墨書掛軸「長華園記」日下部鳴鶴筆

千代田区では今年度指定文化財に指定された山岡鉄舟筆「日枝神社」を始め、何幅もの掛軸を所蔵しています。今回はその中でも、最大級の大きさの作品をご紹介します。

左に挙げたのは明治三筆の一人、日下部鳴鶴（1838～1922）によって楷書で揮毫された掛軸です。表具を含んだ全長は2メートルを超えており、所々に変色・虫損はあるものの、表具とともにかなり良い状態で保存されています。

## 作者について

本名は日下部東作、字は子暘。天保9年（1838）に彦根藩士の家に二男として江戸で誕生し、藩主・井伊直弼の近衆を務めていた日下部三郎右衛門の婿養子になります。しかし、養父は鳴鶴が22歳の時、桜田門外の変で重傷を負い落命します。当時を回顧し、「我輩共は玄関に見送て、煙草二三服も吸った位の頃、変を叫ぶものがあつたので驚いたの何のって、（中略）門に至れば既に御遺骸を運び帰る処であつた。」「君を失ひ父は死に瀕する此刹那、心緒乱れて物も言へなかつた」（井原雲涯編『鳴鶴先生叢話』「井伊直弼公」より）と語っています。

その後、鳴鶴は慶応4年（1868）からは史官として太政官正院に出仕します。新政府で務めていた頃から能筆家であることが知られていたようで、明治9年（1876）には上司である大久保利通（1830～1878）の計らいもあり、明治天皇の前で席上揮毫を行っています。

明治11年（1878）5月14日の紀尾井坂の変で理解者であった大久保が

暗殺されたことも契機となり、鳴鶴は書家として活動すべく進んでいきます。明治13年(1880)に清の楊守敬と交流を持つようになってからは、近代書道の牽引者として、多くの門弟を抱え、出版活動にも熱心に打ち込みました。ちなみに鳴鶴は明治政府に出仕後、明治40年頃に南青山へ転居するまでの間は麴町区に居住しており、公私共に千代田区所縁の人物でもあります。

## 作品について

本資料は旧幕臣で明治期に外交官として活躍した宮本小一(1836～1916)が、現在の豊島区巢鴨五丁目周辺に所有していた農園「長華園」についての由来や開墾の苦勞を記した文章を鳴鶴に揮毫するよう依頼したものです。千代田区には宮本小一に関する所蔵資料があり、令和3年度のテーマ展でも取り上げています。宮本が外交官として活躍していた時期は鳴鶴が大久保の下で働いていた時期と重なります。

この「長華園記」の書体は、鳴鶴の最高傑作と称される「大久保公神道碑」(明治43年建碑)と同じ楷書体で書かれています。大きさや、下に升目が引かれていることから、石碑にするために揮毫したものと思われる。最後の一字に至るまで気力の充実が見られ、明治28年(1895)の壮年期に相応しい筆遣いをしています。

特徴的なのは、雅号の「鳴鶴」ではなく本名の「東作」を落款に用いているところです【写真3】。揮毫された時期は、まさに書家としての名声が高まっていく頃であるのにも関わらず、本名を用いたところには依頼者の宮本との個人的な関係があったことがうかがえます。

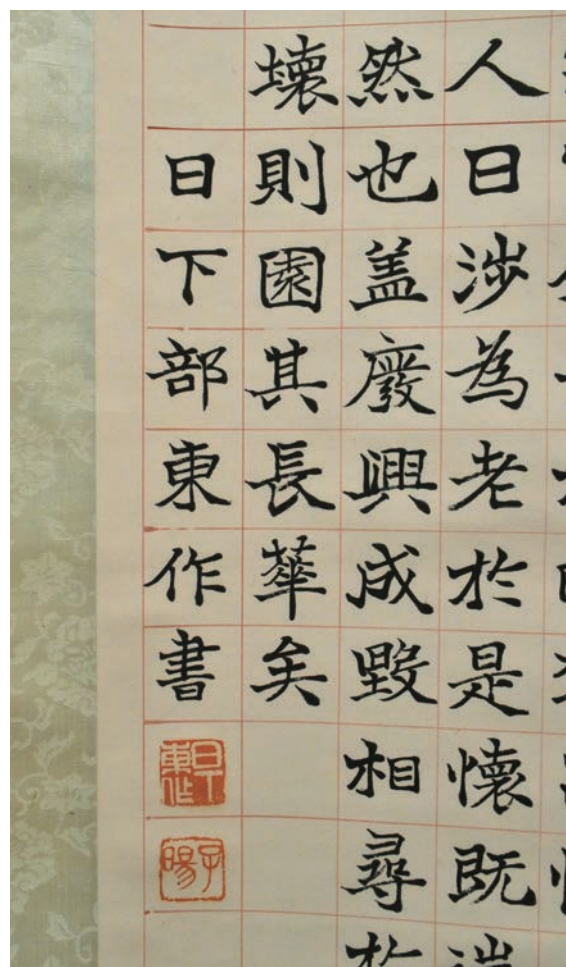
以上のことから、この掛軸は日下部鳴鶴の作品というだけでなく、宮本小一の研究という側面からも非常に興味深い資料であると言えます。

今回取り上げた資料を含め、令和7年1月21日(火)から3月16日(日)まで開催のテーマ展「あの人も千代田区を歩いた～日下部鳴鶴編～」では、鳴鶴にまつわる資料を紹介しています。特別展で紹介している桜田門外の変に遭遇した人物が、明治になってどのように生きたのか、鳴鶴の書の味わいと合わせてご覧ください。

(学芸員 井坂 綾)



【写真2】日下部鳴鶴  
『鳴鶴先生遺墨帖』書壇社、1934  
(国立国会図書館デジタルコレクションより)



【写真3】落款部拡大

# 千代田区のご墳時代 —江戸城内にも古墳が？—

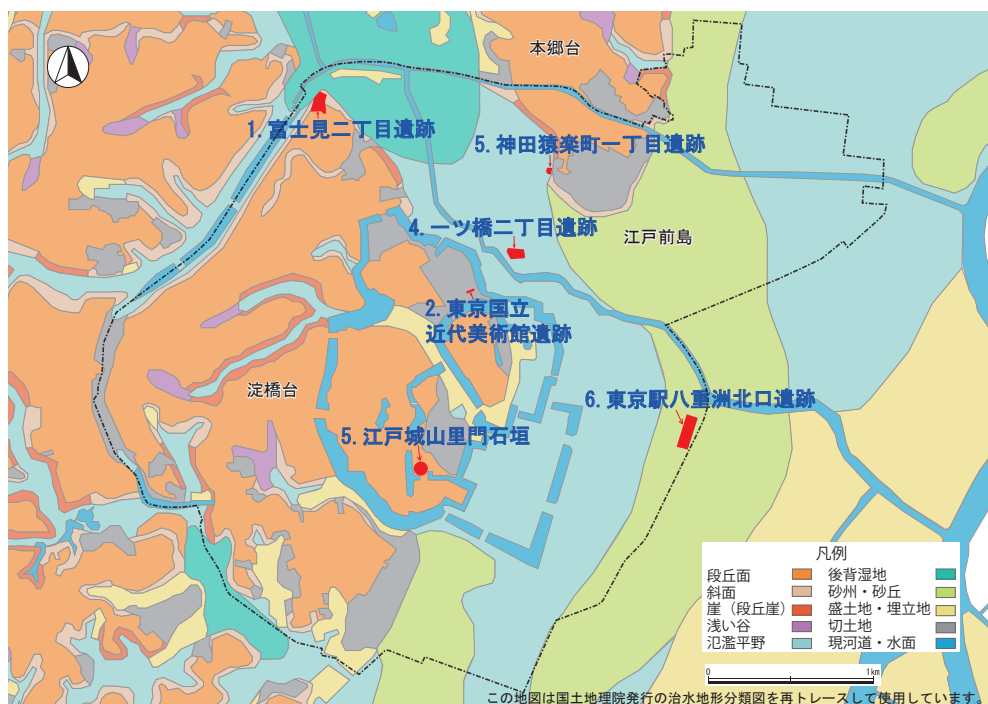
千代田区では、江戸時代の遺跡が大多数を占めますが、わずかながら古墳時代の遺構や遺物が発見されています。区内で古墳時代の遺構として報告されている遺跡は、富士見二丁目遺跡、東京国立近代美術館遺跡、江戸城跡山里門石垣調査地点、一ツ橋二丁目遺跡、神田猿楽町一丁目遺跡の5つです。今回は、その概要について紹介します。



【写真1】山里門の住居跡

## 地理的環境と遺跡の位置

区内における古墳時代の遺跡は、千代田区西側に広がる武蔵野台地東縁部に集中しています。区内には、淀橋台と本郷台の2つの段丘面が存在しており、富士見二丁目遺跡、東京国立近代美術館遺跡、江戸城跡山里門石垣調査地点は前者に、神田猿楽町一丁目遺跡は後者の先端部分（低地）に位置しています。一ツ橋二丁目遺跡は、神田川下流域にあたり、淀橋台・本郷台の間を流れる旧平川が形成した沖積低地に位置しています。



【図1】千代田区内における古墳時代の遺跡や遺構が発見された区内の遺跡

現在のところ低地では、古墳時代の遺跡は少ないですが、江戸前島にあたる東京駅八重洲北口遺跡では、近世の盛土から多くの古墳時代前期～後期までの土師器や須恵器などが出土しています。

千代田区周辺では、文京区の本郷台上や、神田川流域の新宿区下戸塚遺跡、中野区遠藤山遺跡、淀橋台東縁部台地突端部の港区芝丸山古墳などで古墳時代の遺跡が確認されています。

【表1】千代田区における古墳時代の遺跡一覧

NO.	遺跡名	調査年	検出遺構	出土遺物
1	富士見二丁目遺跡	平成17年	住居跡 1軒 円墳 1基	土器
2	東京国立近代美術館遺跡	昭和54年～昭和55年	住居跡 12軒	石製品、土製品、埴輪片、土器
3	江戸城跡山里門石垣	平成17年	住居跡 1軒	土器
4	一ツ橋二丁目遺跡	平成7年	溝遺構 2基	土器、土製品
5	神田猿楽町一丁目遺跡	令和2年	溝遺構 1基	土器
6	東京駅八重洲北口遺跡	平成12年～平成13年		土器

## 発見された遺物・遺構

発見された古墳時代の遺構は、古墳の周溝や住居跡、溝遺構が挙げられます。

富士見二丁目遺跡では、区内唯一の古墳である古墳時代中期の円墳（富士見二丁目1号墳）が確認されました。この古墳の規模は約30mであり、古墳の周溝内からは、古墳時代前期の小型器台や高坏、S字状口縁台付甕などの遺物が混在して出土しました。また、本古墳の南側では、古墳時代前期の住居跡が確認されており、遺構の切りあい関係から、弥生時代から古墳時代前期の住居などを破壊した後に古墳が築造されたことが推測されています。

東京国立近代美術館遺跡では、古墳時代前期の住居跡が5軒、後期の住居跡が9軒見つかりました。この遺跡からは、石製模造品や古墳の存在を示す埴輪片が少量出土しています。また、多くの土錘<sup>どすい</sup>が発見され、漁業をしながら生活していた様子がうかがえます。

江戸城跡山里門を構成する枡形石垣の下部からは、古墳時代後期の竪穴住居跡が1基確認されています。住居内の遺構は、石垣の構築などで大部分が破壊されていましたが、赤彩された土師器の破片などが12点出土しています。



【写真2】東京駅八重洲北口遺跡出土土器

## 今後の遺跡発見の可能性

千代田区内の古墳時代の遺跡は、神田川流域を望む台地上で確認されています。年代については、古墳時代前期と古墳時代後期の遺構が多く、周辺の神田川流域の遺跡と同様の傾向が見られます。それを踏まえると、平成17年（2005）に発見された古墳時代中期の富士見二丁目1号墳は、区内の古墳時代の歴史を語る上で大きな発見と言えるでしょう。

神田川及び支流域での古墳については、調査例は乏しいですが、円墳によって構成される群集墳となっている事例が報告されています。富士見二丁目1号墳から南側に下った東京国立近代美術館遺跡では、埴輪片が出土していることから、当該地や富士見二丁目1号墳周辺でもさらなる古墳や関連する住居跡が発見される可能性も期待できます。

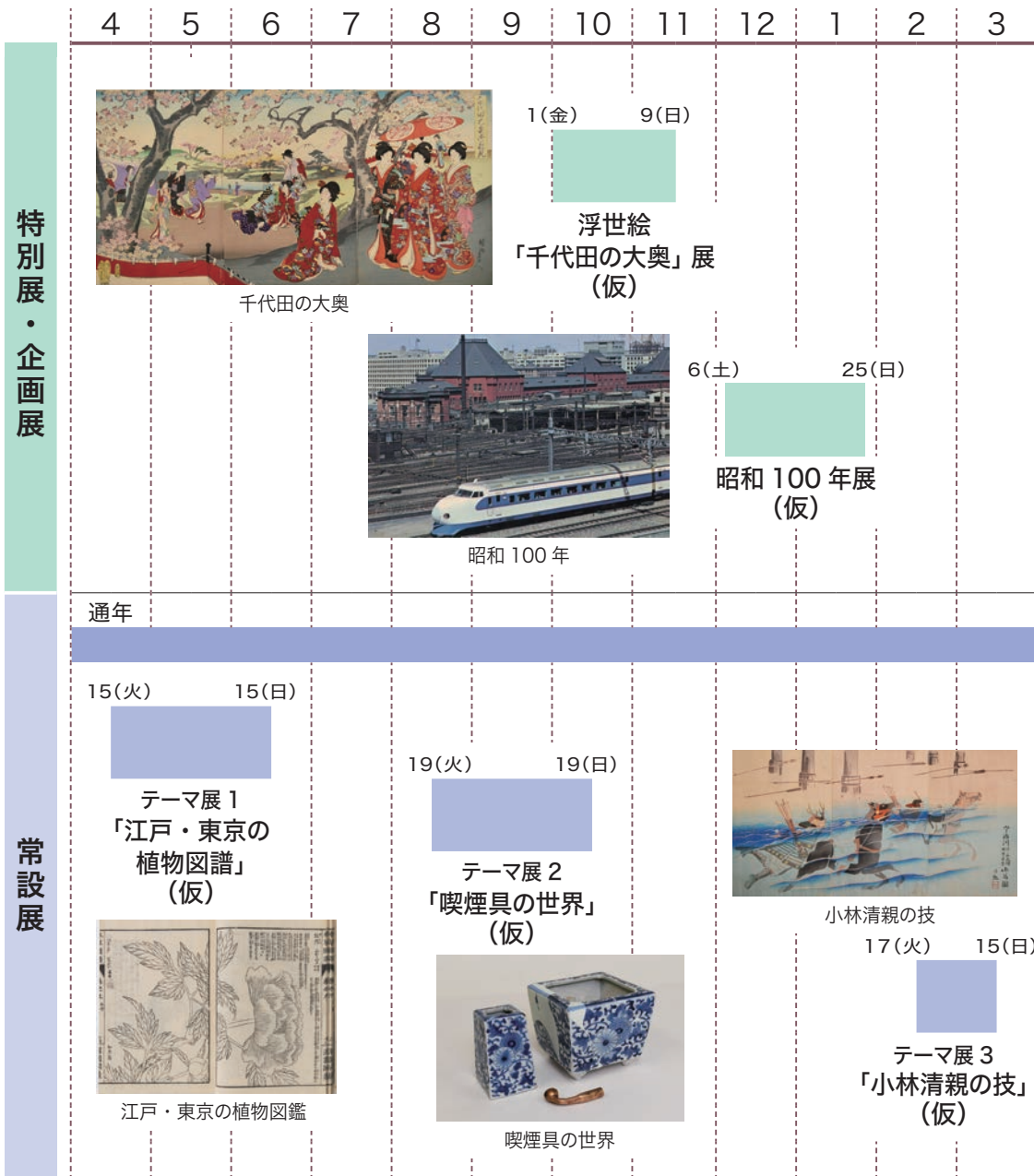
前述した2遺跡と同じ淀橋台に属している皇居内の江戸城山里門でも住居跡が確認されており、もしかしら今後の調査によっては皇居内でもさらなる住居跡や古墳が発見されるかもしれません。（学芸員 山田 暁也）



【写真3】富士見二丁目1号墳確認状況



# 令和7年度年間スケジュール（予定）



都営地下鉄 ●三田線—「内幸町駅」徒歩3分  
 東京メトロ ●千代田線  
 ●日比谷線 } 「霞ヶ関駅」徒歩5分  
 ●丸ノ内線  
 駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時  
 土 10時～19時  
 日・祝 10時～17時  
 文化財事務局 月～金 10時～18時 文化財ホームページ  
 ※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。  
 最新情報はホームページ等でご確認ください。  
 休館日 毎月第3月曜日



文化財ニュース 第35号 (3,000部)  
 発行日 令和7年2月3日  
 編集 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局  
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4  
 TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361  
 https://www.edo-chiyoda.jp  
 発行 千代田区教育委員会  
 印刷 日本印刷株式会社